

100年杉

群馬県は県土面積の約2／3が森林で関東で最も広い面積となっています。森林には高い公益的機能があります。保水等による水源涵養機能や、自然災害防止機能、二酸化炭素固定化の環境機能などです。これらを持続させるためには、適切な整備・保全と木材利用が必要です。

大正初期、群馬県西毛・旧倉渚村の山林に未来を託して杉が植林されました。それから100年経ち、森と水・人に育くまれた杉は、直径80cm・高さ35mに成長しています。まさに今、その価値を享受できる最適な時期になりました。

現在、森林素材は樹齢50～60年までの立木が助成間伐され、材木市場の大半となっています。しかし、木材の持つ価値と魅力はそれからの数十年で更に育まれるのです。今、一世紀を経た森林の杉を利用して、木の良さを身近に感じ、日本の木の文化を学び、その魅力を未来へつなげます。

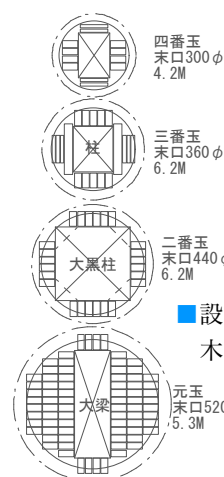
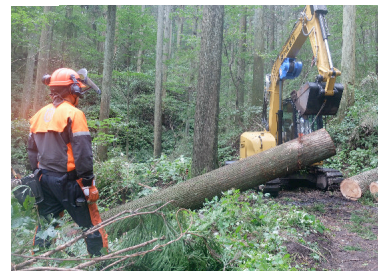
木の良さを身近に感じる

木の空間に住む／住宅

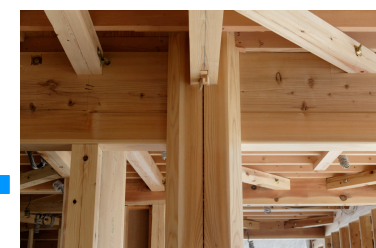
～立木の選定から、伐採、製材、住むまで～

■森林で製材技術者と森林技術者と共に立木を選定する。

木の素性はもちろんであるが、地形や環境条件も考慮し木を選ぶ。



■伐採する。秋の新月伐採（新月前の数日）が良いとされる。9月の新月前日に伐採を行った
木の素性を見ながら製材を製材を行う。節の出方で木取りを対応して行く

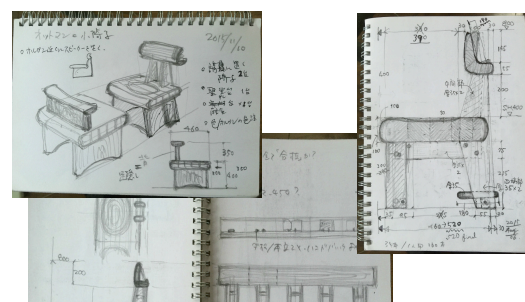
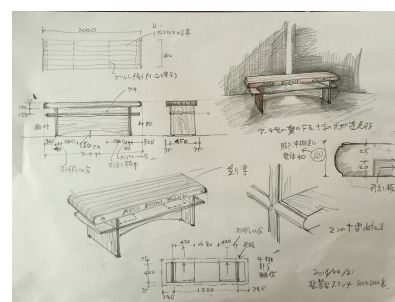


■設計で詳細な木取りを行う。
木を余す所なく使い切る。

100年杉の大黒柱と大梁

木で家具を作る／椅子

～木をデザインし、作り、使う～



■柔らかな素材である杉を大きな断面で使い、暖かく優しさを感じ、香りの良い家具をデザインする。



木の文化を知る・育む

勉強会・見学会

～木造建築伝統的工法の勉強会～

木育支援

活動部門

低炭素社会の推進

森林・水・生態系などの自然資源の保全と活用

ぐんま木塾 100年杉プロジェクト

プログラム

倉渚の100年杉を活用し、林業生産者、製材者、建築家、専門家がチームを組み、次の活動を行っています。

■木の良さを身近に感じる

- 建築・空間の木質化
- 木をデザインした家具づくり

■山の木を使い易く、わかり易くする仕組みづくり

- 作り手と使い手・山と街をつなぐ
- 顔の見えるコトづくり

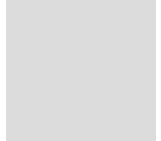
■森林を未来につなぐ

- 森林ツーリズム
- 木を植え育てる

■木の文化を知る・育む

- 勉強会、見学会
- 木育支援

ぐんま木塾・メンバー

	室伏次郎 スタジオ・アルテック 建築家・JIA会員 神奈川大学名誉教授		石垣健次郎 磯村産業・企画室
	須田睿一 須田建築計画工房 建築家・JIA会員 ヘリテージマネージャー		土屋啓介 磯村植林所 林業技術者
	長井淳一 アルキーフ長井アトリエ 建築家・JIA会員 ヘリテージマネージャー		小井土義治 小井土製材 製材技術者
	永井福二 設計工房福 建築家・JIA会員		室伏多門 森もり倶楽部 里山コーディネーター